

6-5 支配階級の思想は支配的な思想であり支配の思想である

「支配階級の思想はいずれの時代においても支配的な思想である。すなわち、社会の支配的な**物質的**力である階級は同時に社会の支配的な**精神的**力である。物質的生産のための手段を意のままにする階級はそれと同時に精神的生産のための手段をも自由にあやつることができるのであるから、そのためにまた、概して言えば、精神的生産のための手段を欠く人々の思想は支配階級の思いどおりにされる状態におかれている。支配的な思想は支配的な物質的諸関係の観念的表現、思想のかたちをとった支配的な物質的諸関係以外のなにもでもない。したがって、それは、まさにそれこそが一つの階級を支配階級たらしめている諸関係の観念的表現であり、したがってこの階級の支配の思想である。支配階級を構成する諸個人はとりわけまた意識をもち、それゆえに思考する。したがって彼らが階級として支配し歴史の一時代を全面的に規定するかぎり、彼らがこのことを彼らの及びうる全範囲においてなすということ、したがってなかんずく思考者としても、思想の生産者としても支配し、彼らの時代の思想の生産と分配を規制するということが、したがって彼らの思想がその時代の支配的な思想であるということは自明である。たとえば王権と貴族とブルジョアジーが支配を争い合い、したがって支配が割れているような時代と国においては権力分立の説が支配的な思想として現われ、これが一つの「永遠な掟」だといわれる。」

④-[11]P71下8~73上11 (マルクス・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』)